

うるし

漆工事 Vol.6

・美しい艶を出すための技法 【2020.12 実施】

漆の修復作業はvol.5で終了しましたが、修復箇所の一部にはさらに鏡面のように平滑で光沢のある漆面へと仕上げていく蠟色作業を追加で行います。蠟色作業は、炭研ぎ・胴摺り・摺り漆の工程で行われます。

炭研ぎは、漆塗作業時の刷毛目や付着したゴミを取るために、弾力がなく適度に水分を吸収し、鋭く平滑に研ぐことが可能な駿河炭を使用し、漆面を研ぎます。炭研ぎを行い修復箇所を平滑にしたら、微細な研ぎ傷を消すためにコンパウンドや砥の粉と油を混ぜたものを使用して磨き、胴摺りを行います。その後、生漆を薄く摺り込み、ムラになっている余分な生漆を紙で拭き取る摺り漆を行い、漆を乾かしていきます。このとき、漆は空気中の水分を取り込んで乾くので、空気が乾燥している場合は、布を湿らせた「しめ布」をかけて湿気を与えます。漆が乾いたら、摺り漆を行った箇所を磨き、摺り漆・乾燥・磨きの工程を複数回繰り返します。最後に、砥の粉をつけた手のひらで漆面を磨き、鏡面のように仕上げ、蠟色作業は終了となります。

※1 駿河炭:油桐を焼いて作った炭で、軟らかいので中塗り砥ぎや蠟色仕上げの下砥ぎに使用します。

※2 砥の粉: 粒の細かい土で、木目へ刷り込み凹凸を埋めや表面の仕上げ、研磨剤として使用されます。



▲ 蠟色作業の様子



▲ すべての工程を終えた柱